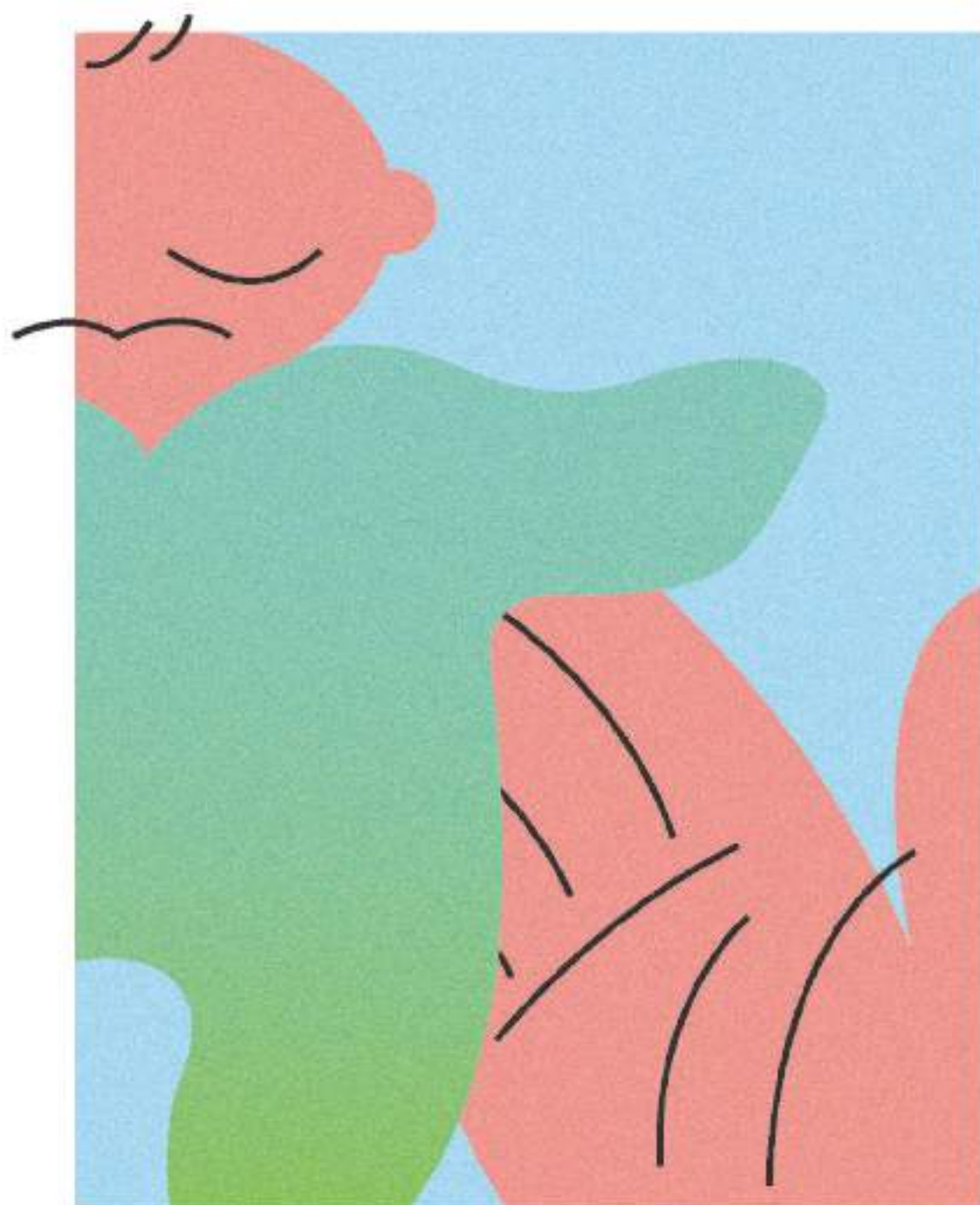
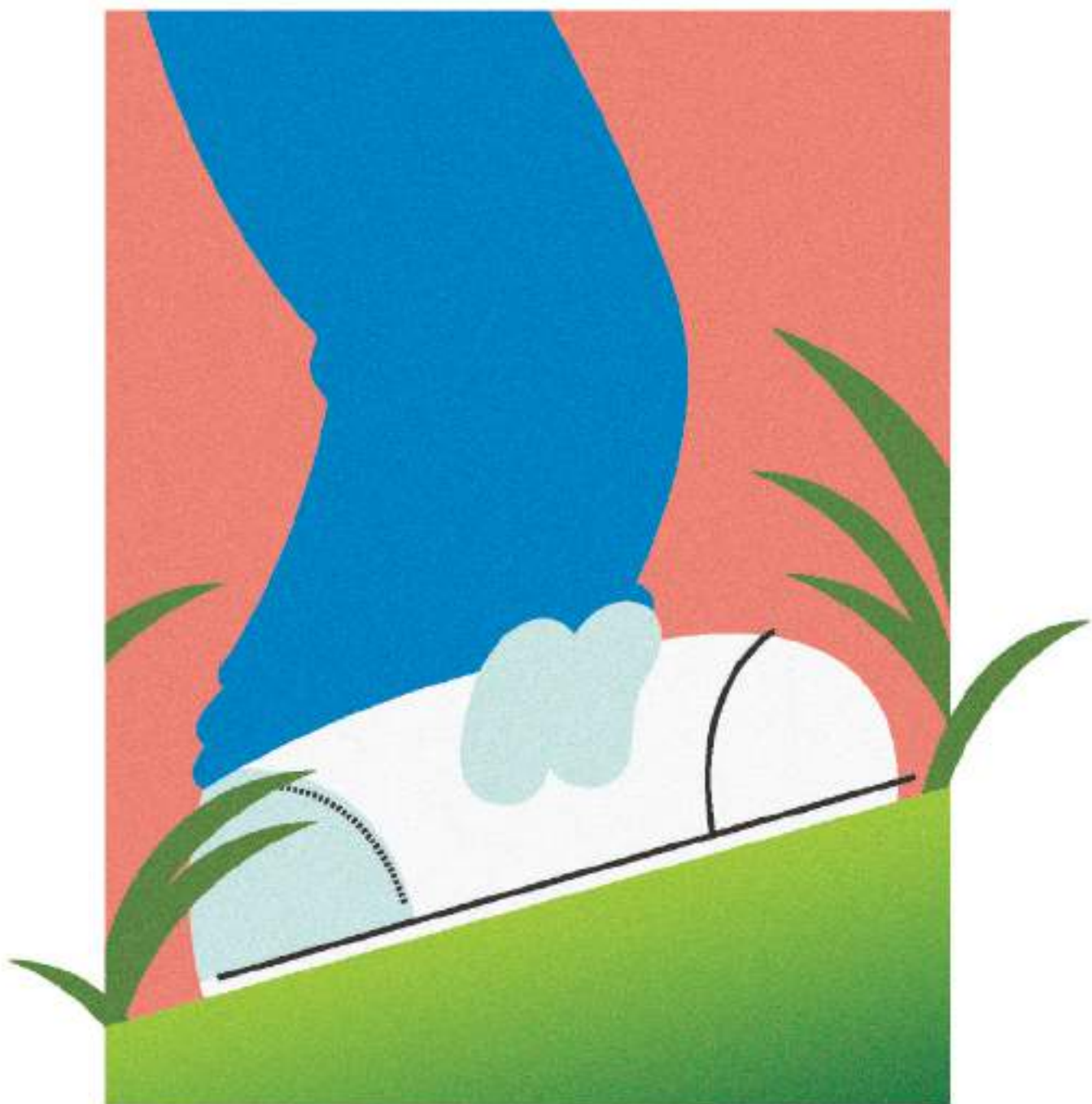




0 ぼやけて眩しい外の世界



1 はじめて、生えかけ



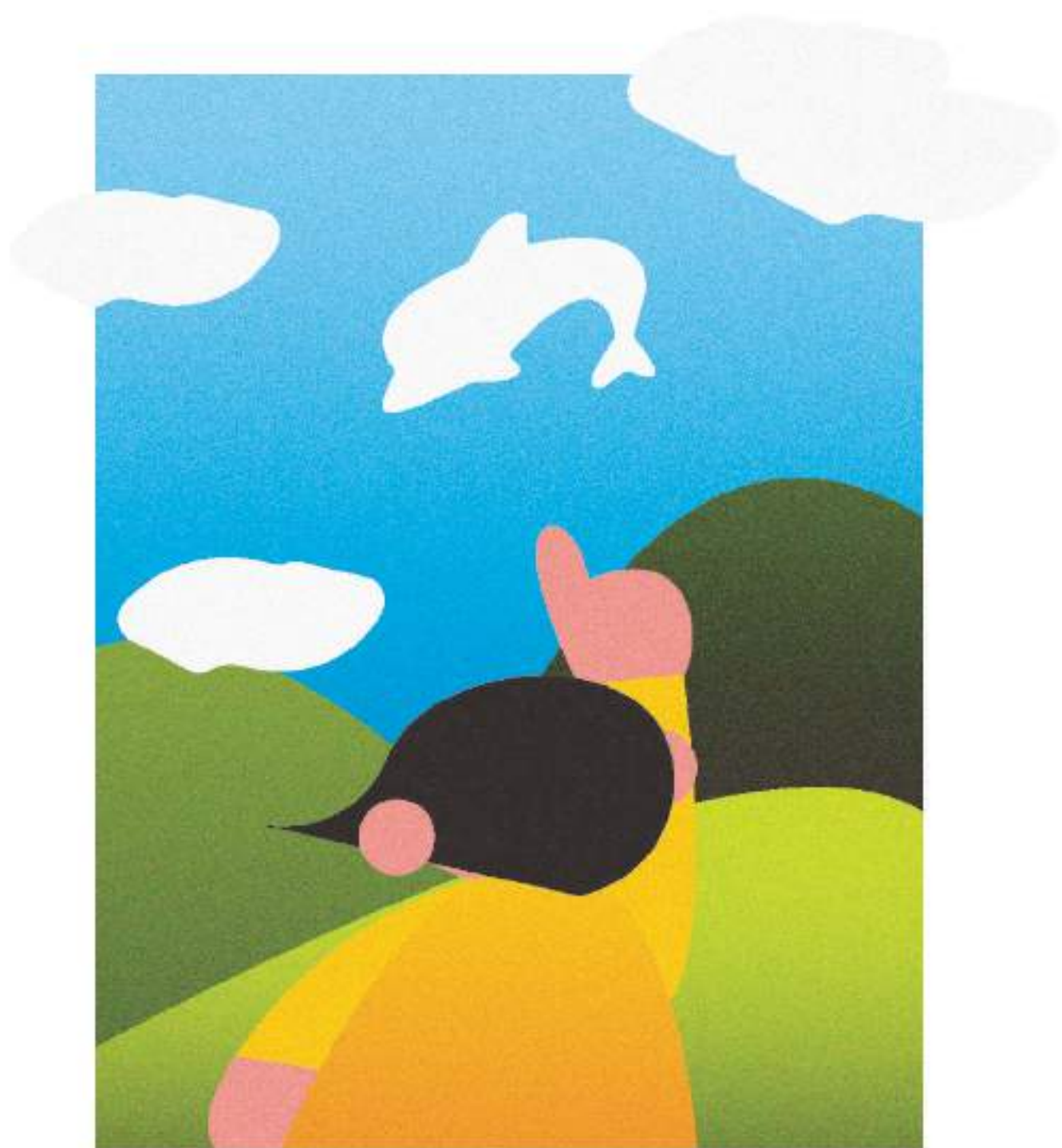
2 走って飛んで



3 ありの行進

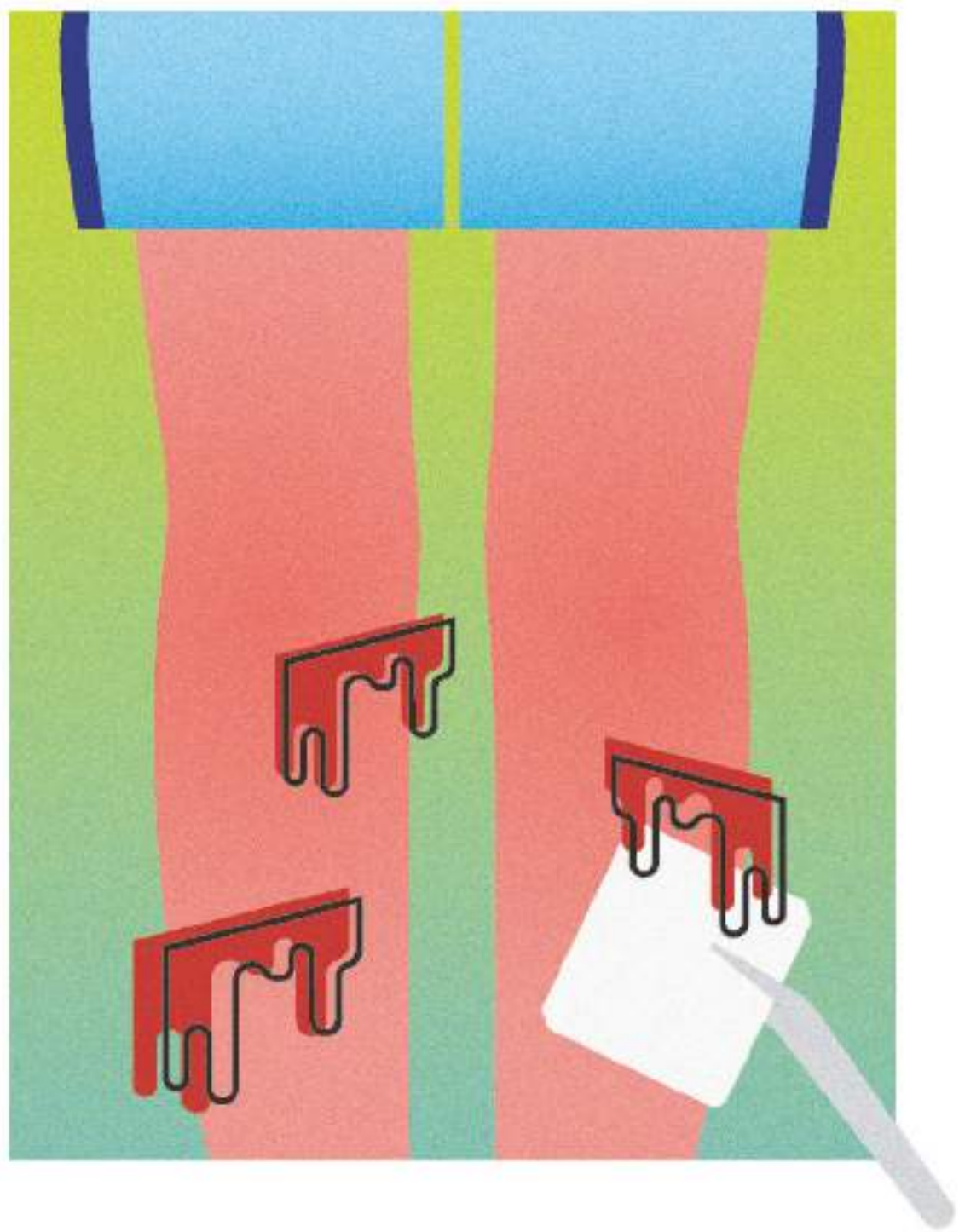


4 対、最大の敵





6 気持ち、ぐるぐる



7 勳章



8 なんでも、どこにでも



9 飛び出る頭



10 優しいあの子



11 昨日までは





13 新しい家族



14 おそろいのはじめて



15 帰り道の歌







18 ティーン・エイジ



19 ゆらゆら、そのまま



20 旧友





22 背伸び、夜遊び





24 寄り添い



25 勘違いの月夜



26 気づいた熱視線

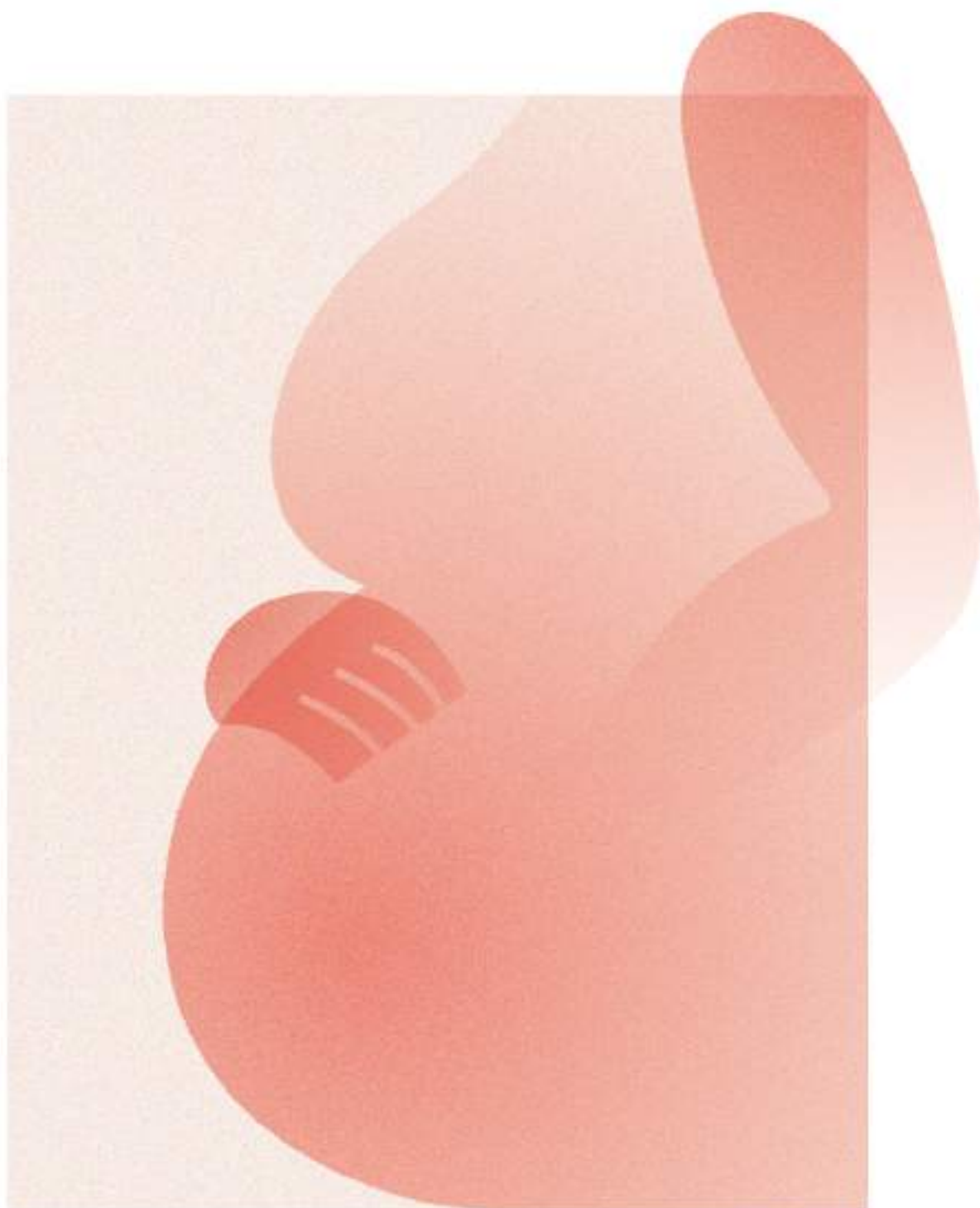


27 日の出





29 健やかなる時も、病める時も





31 はじめまして



32 無償の愛





34 朝にいったコーヒー



35 キラキラ、おしゃべり





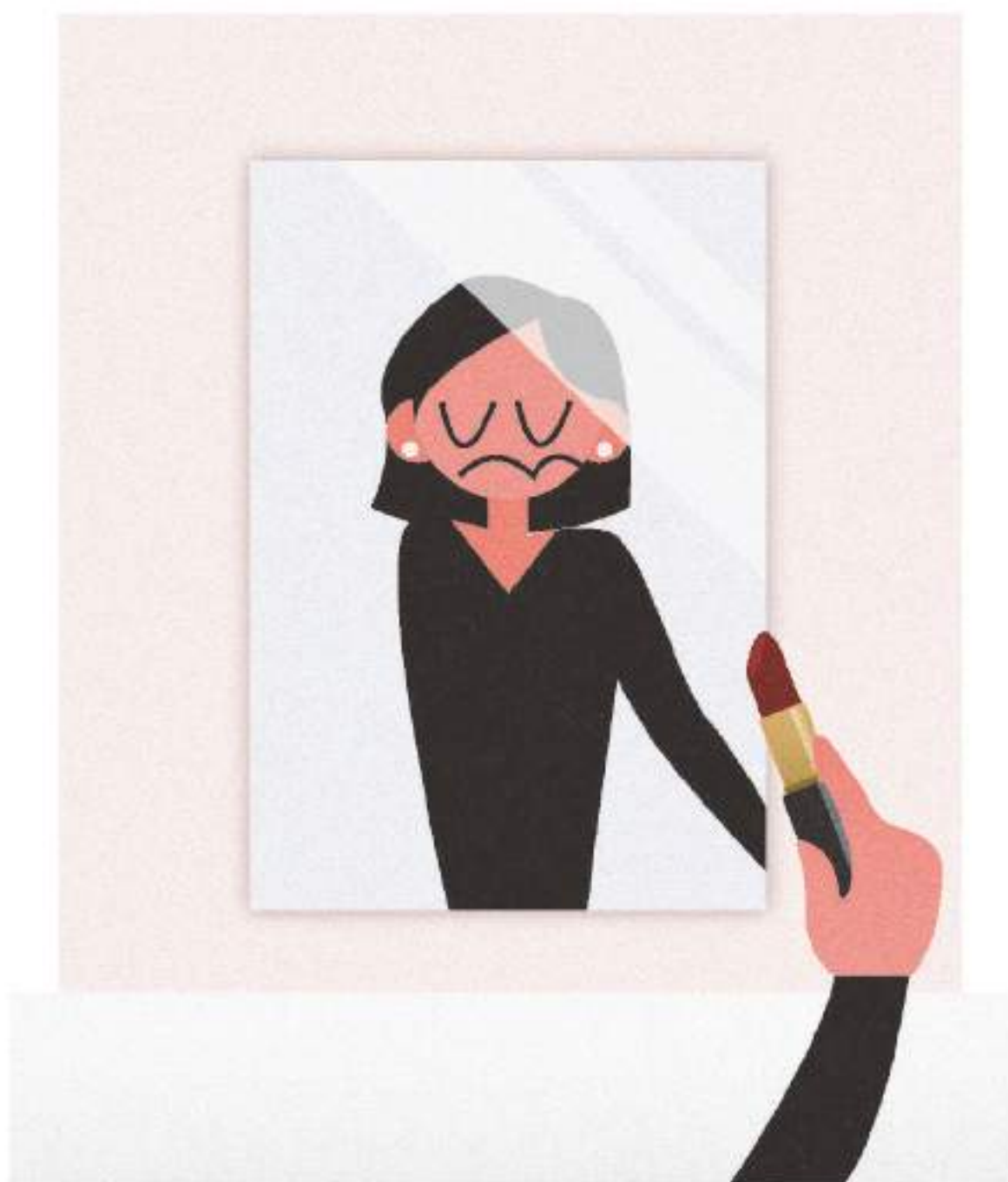
37 好奇心、心配



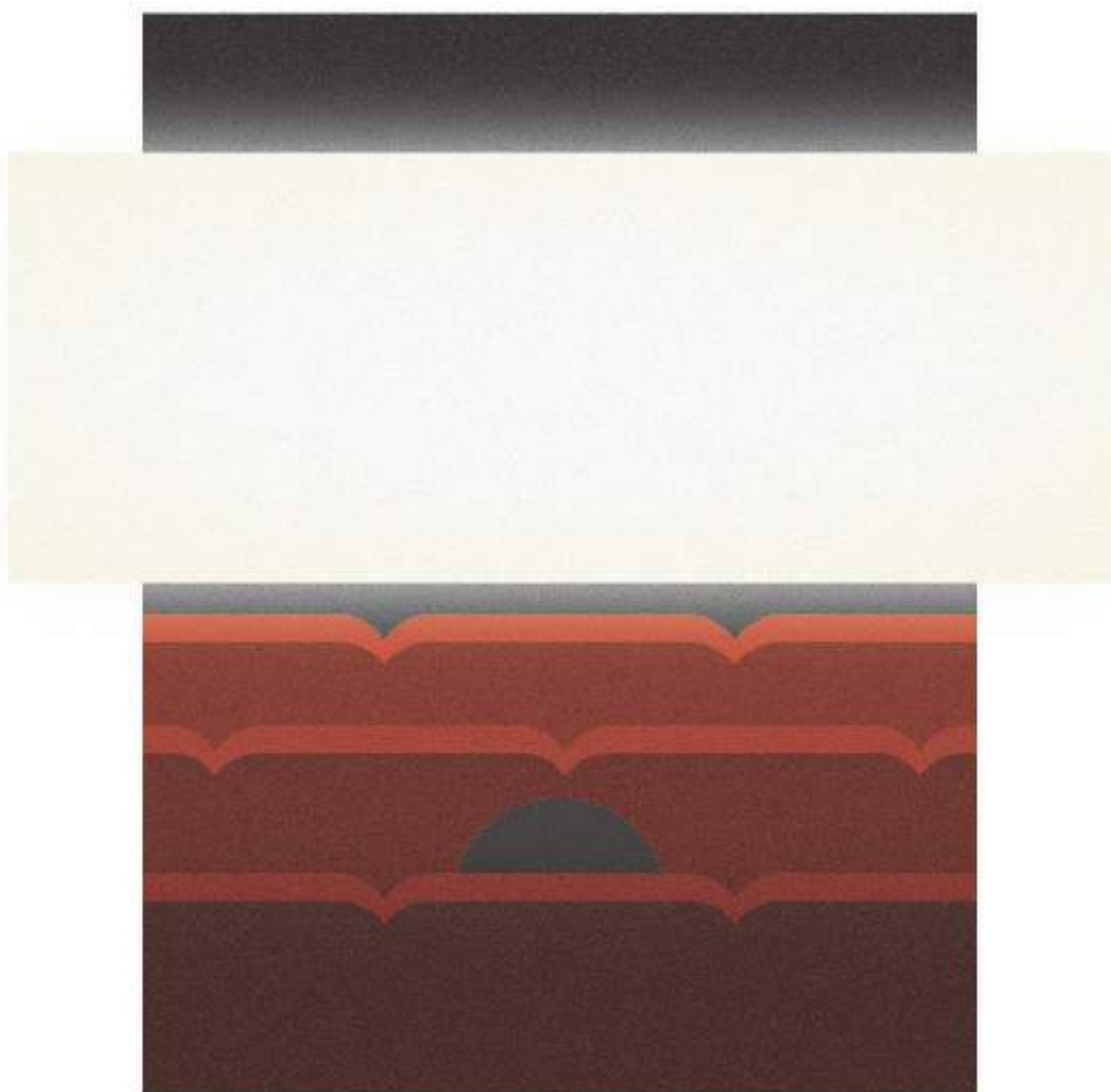




40 チーズとワイン



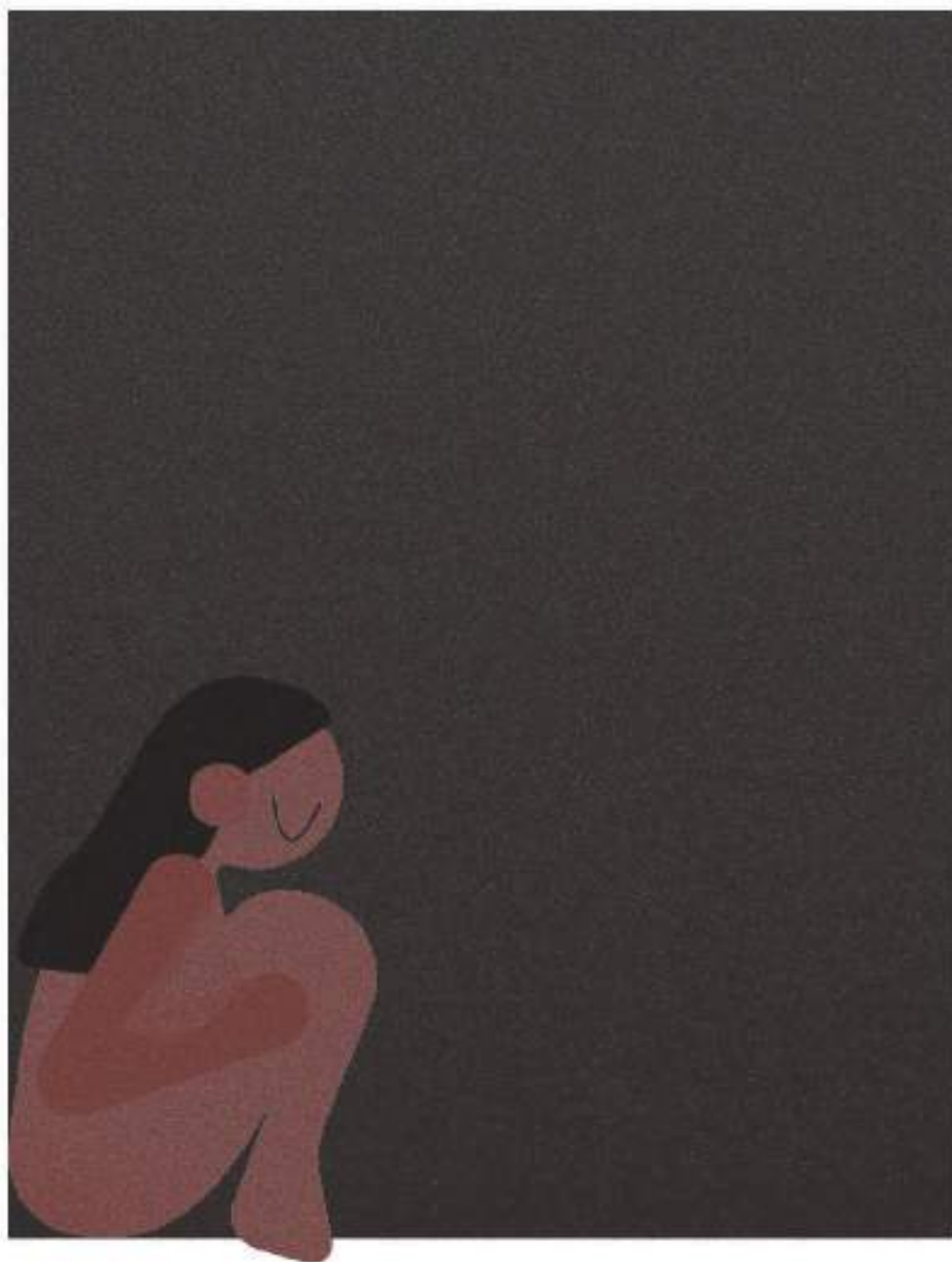
41 赤い口紅、真珠のピアス



42 PM9:00 のレイトショー







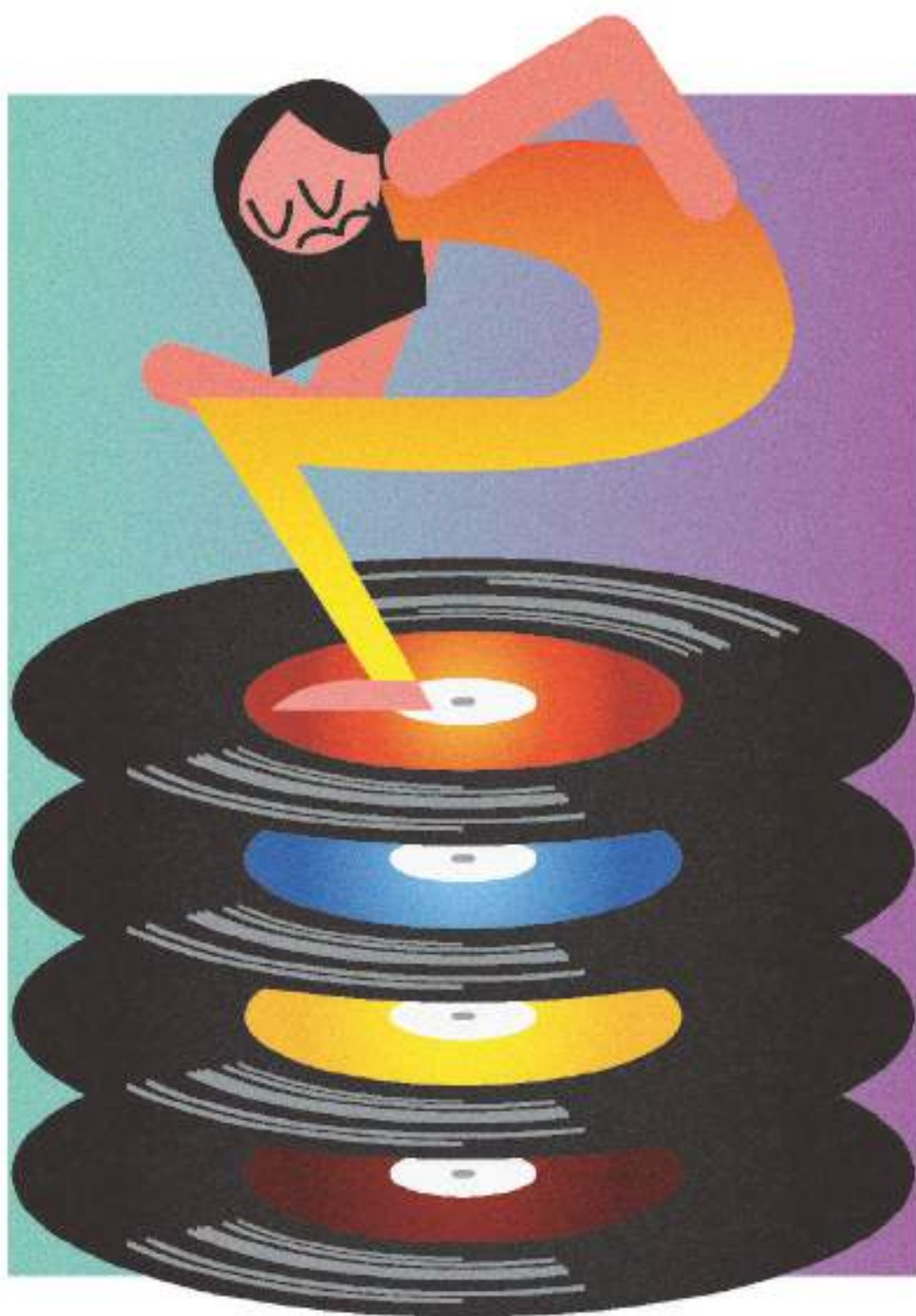
45 冷たく、暗い



46 花束にのせて



47 久しぶりのラブ・ストーリー

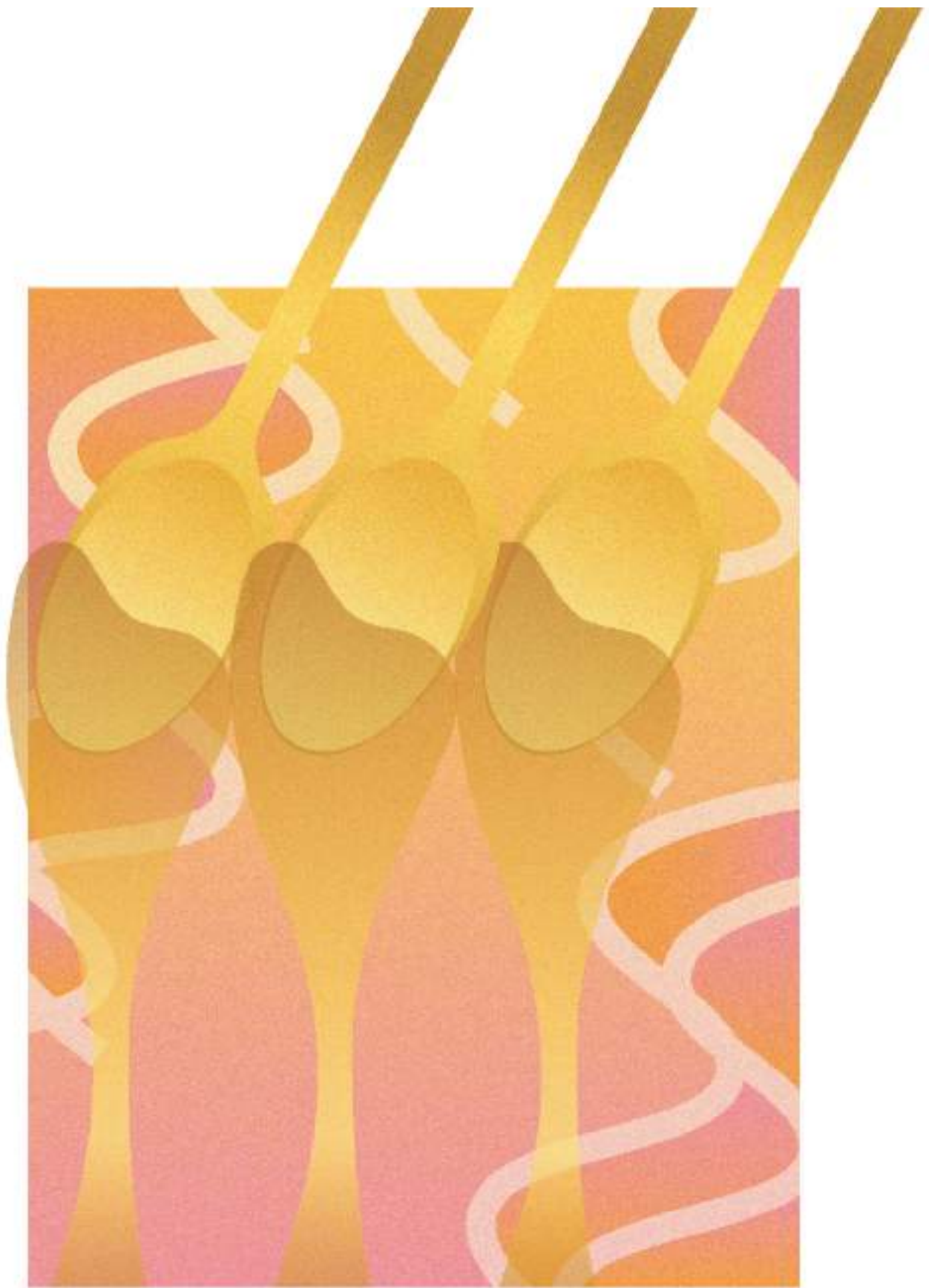




49 冰点下





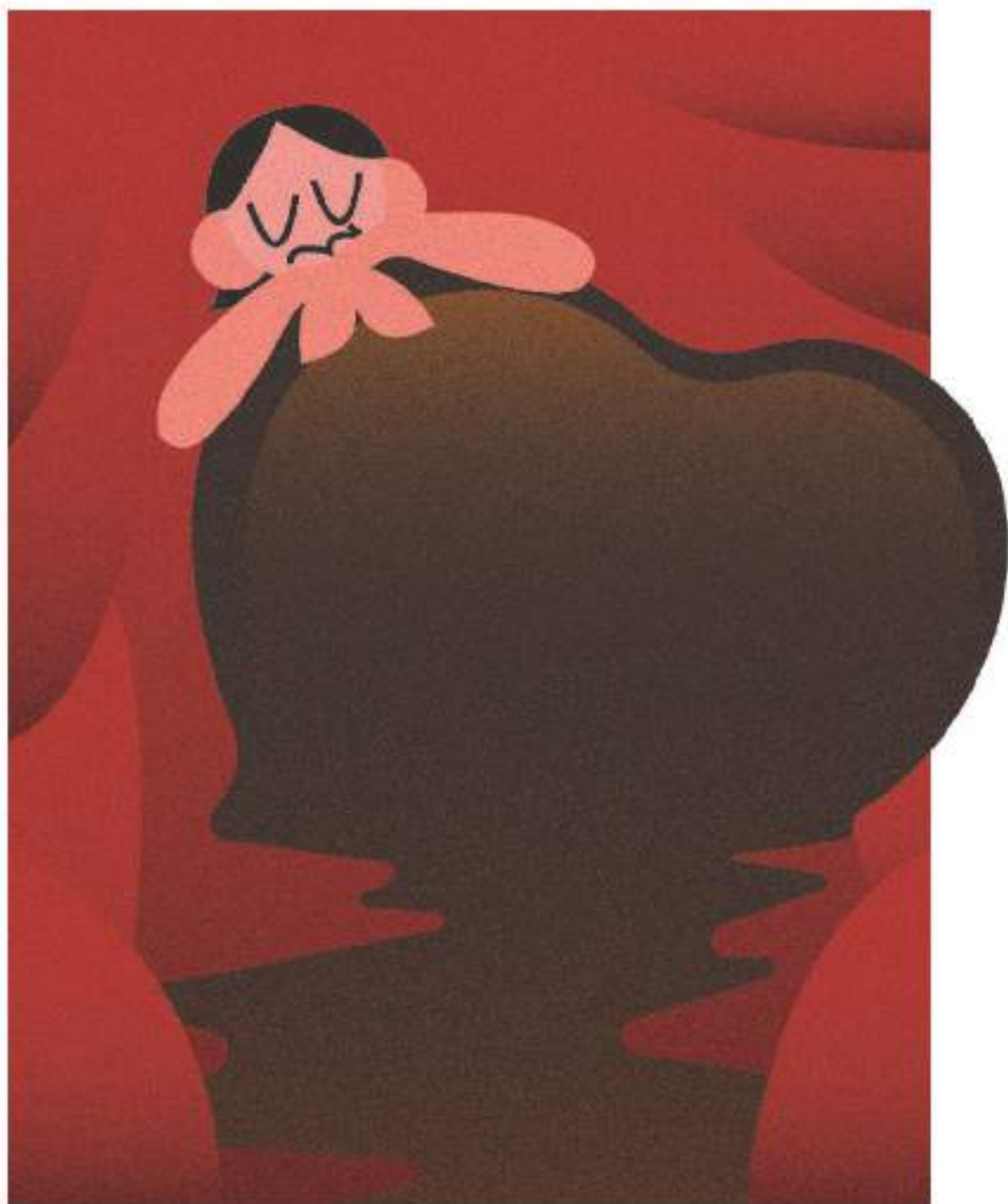


52 コトコト蜂蜜、金のスプーン



53 刻まれる











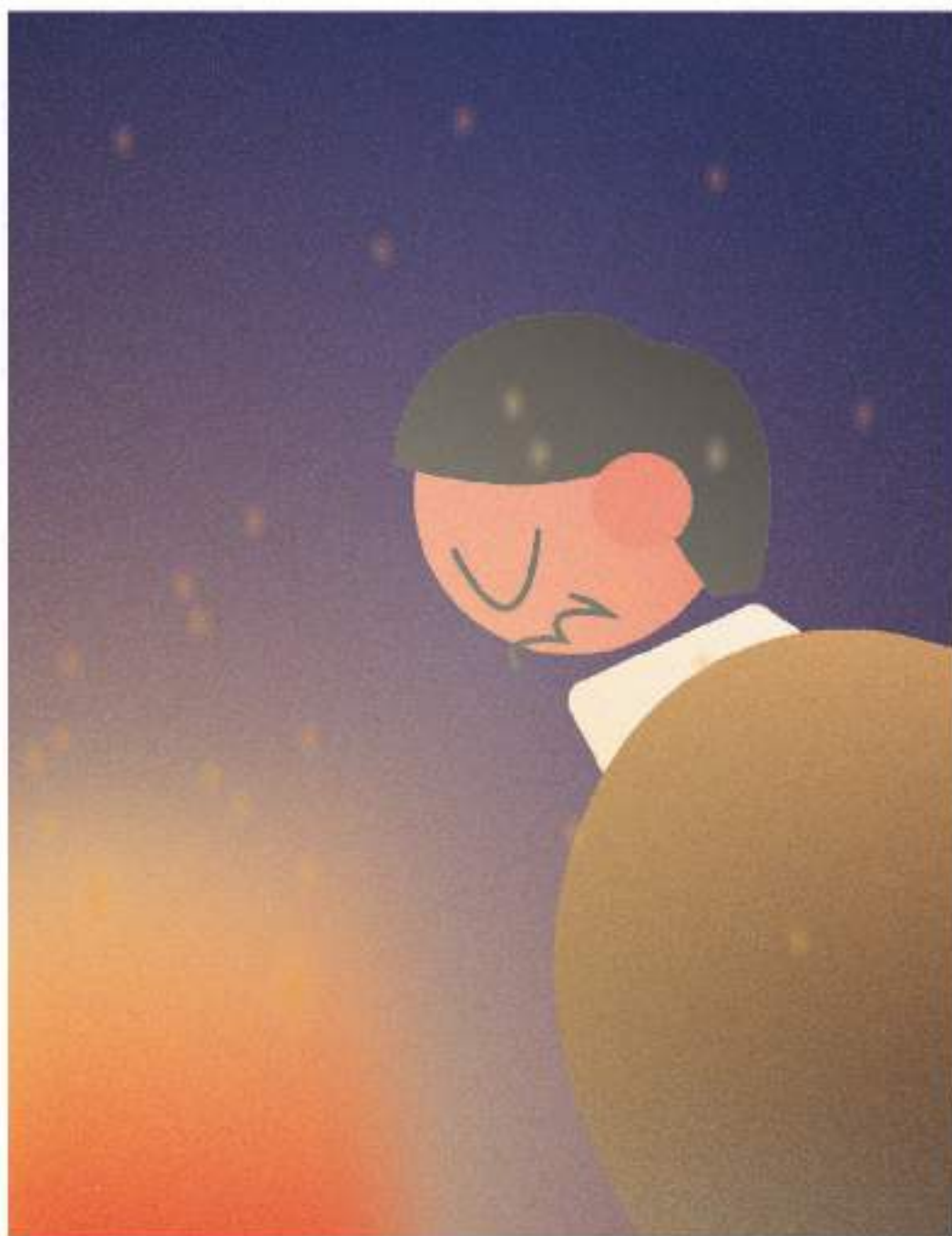


59 スパークリング・ロゼ

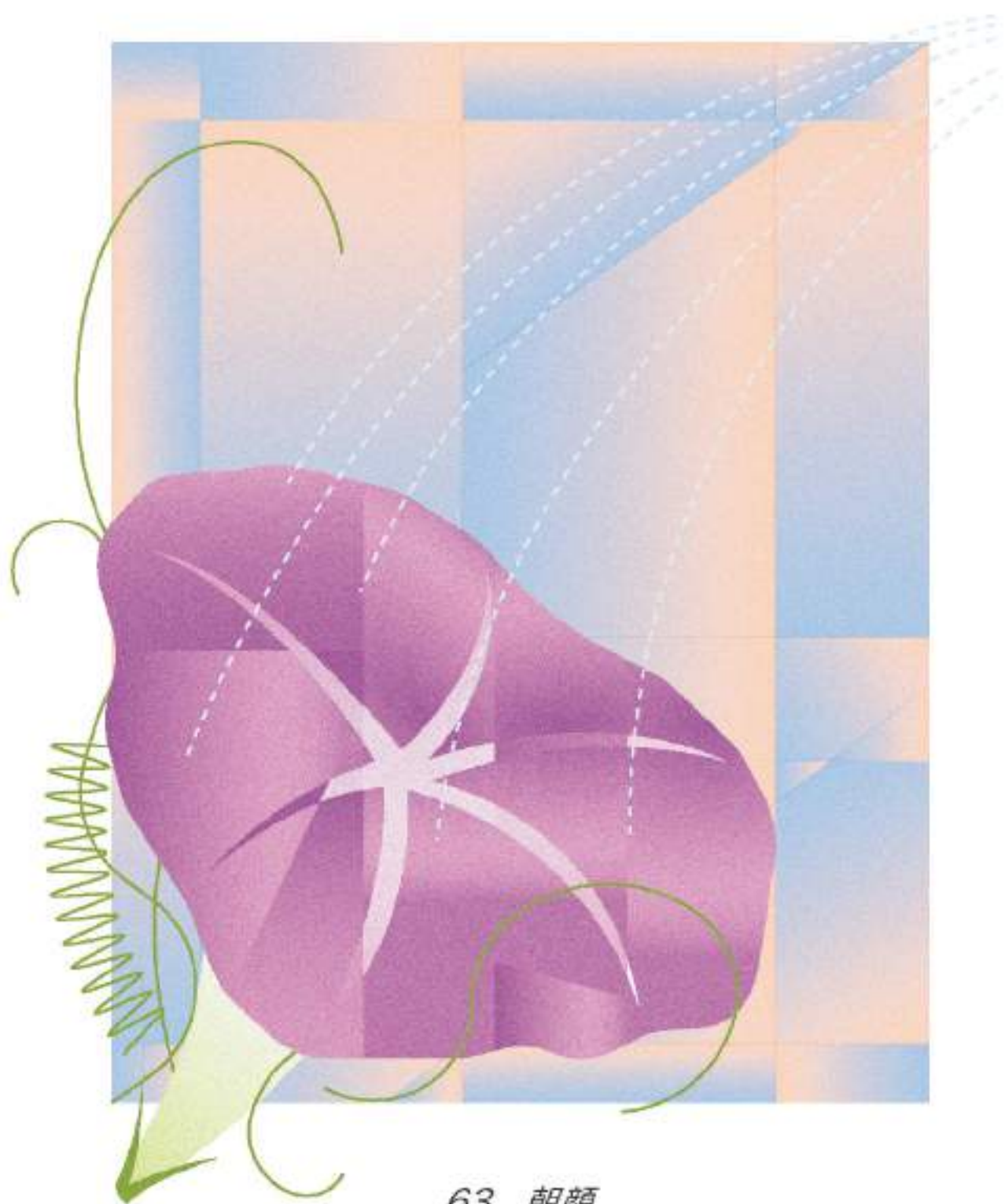




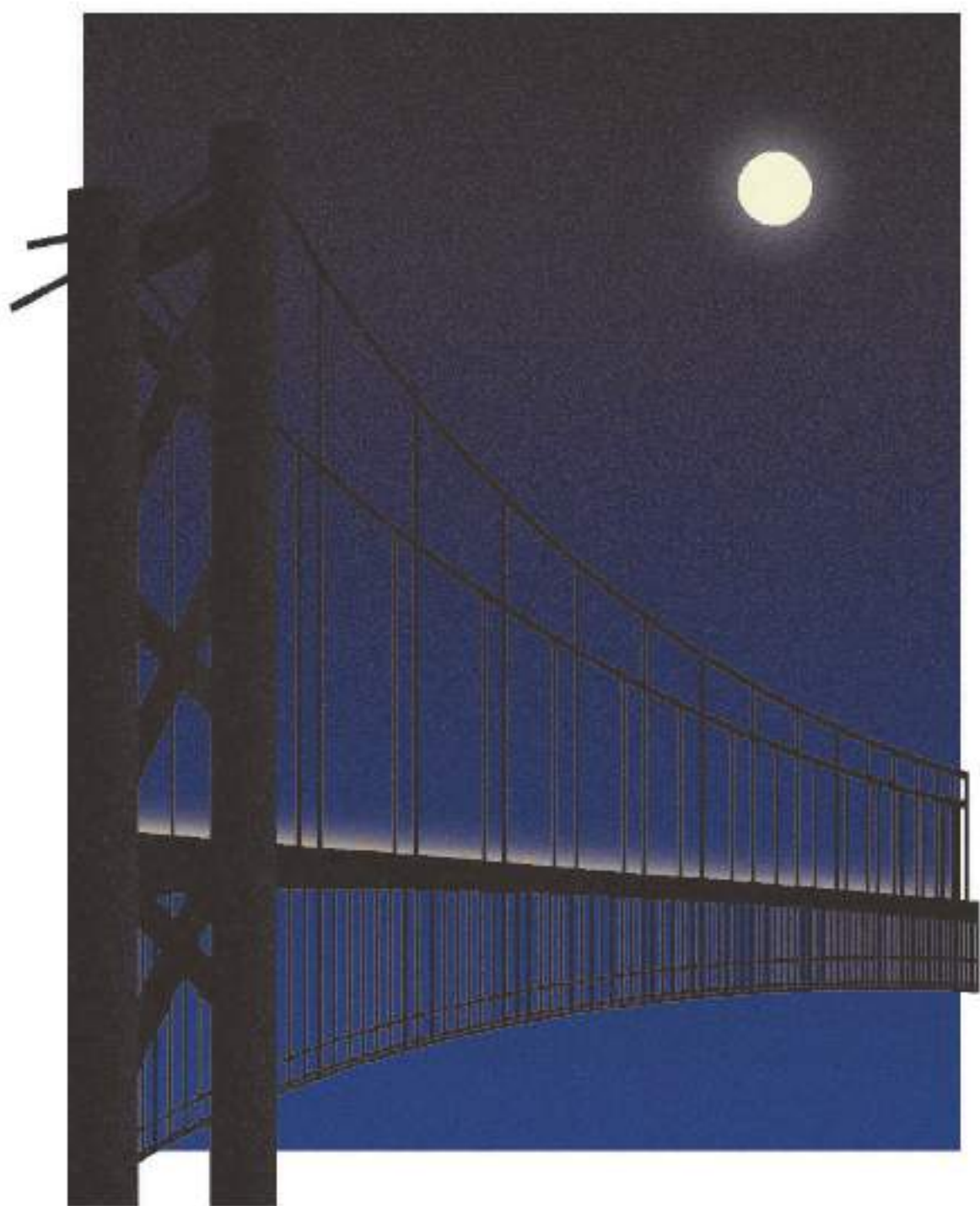
61 夢見るワンピース



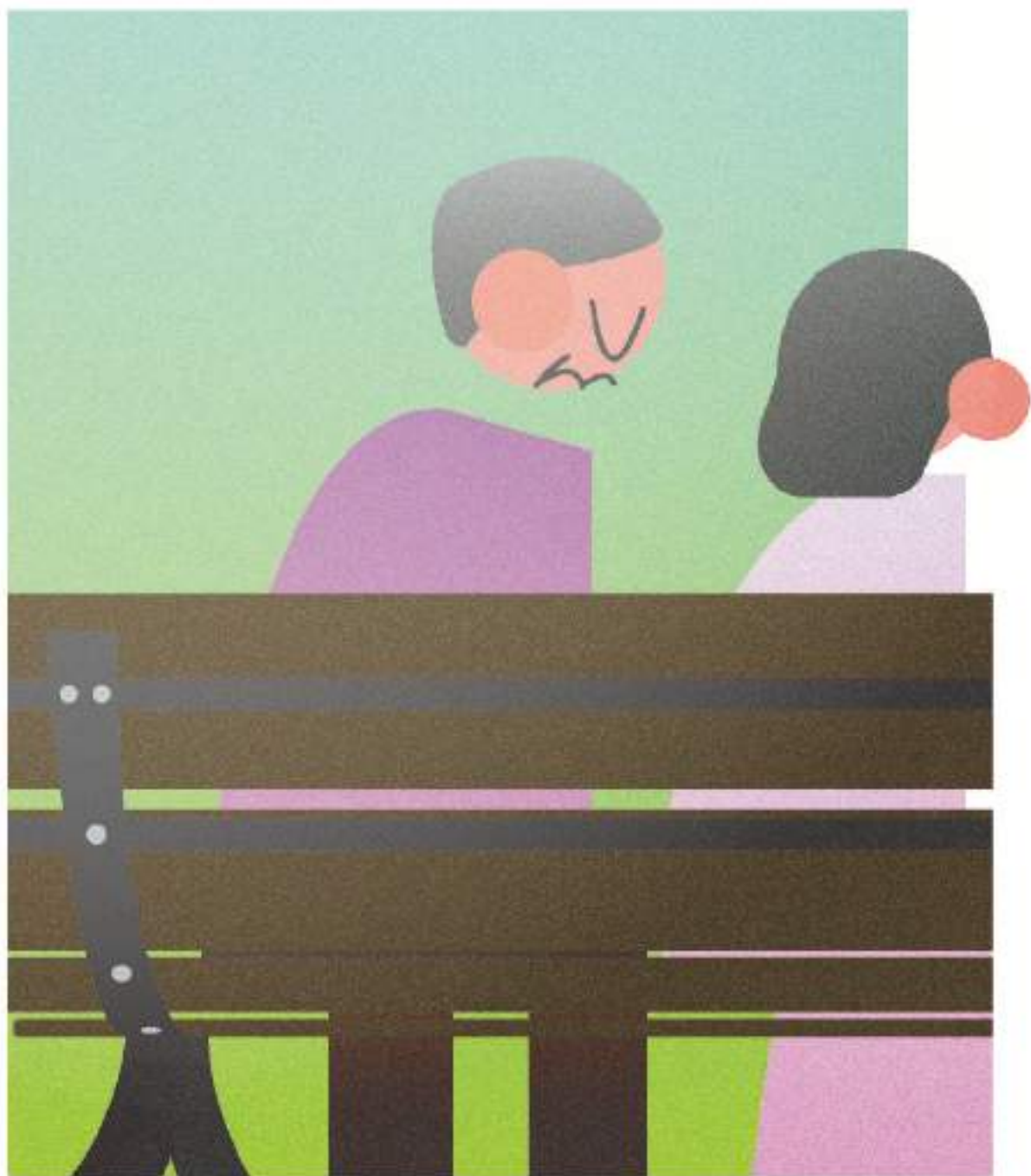
62 めらめら、焚き火







65 あの夜の逃避行







68 宝石チェリーパイ





70 寄り道

あとがき

この卒業制作は矛盾だらけです。人生100年と書いておきながら、70までしか絵が描かれていない。0から制作しているから、紙の枚数は101枚です。人生100年じゃなかったの？なぜ70で止まったの？この人は誰？色々な疑問が浮かんでくると思います。まず、この70という数字は、私の身近な人の人生が止まった数字です。彼は70歳で亡くなりました。私が10歳の頃です。彼は「人生100年時代の人」ではありませんでしたが、私は現代を「絶対に100歳まで生きられない時代」でもないと思うので、彼もまた「100年生きられたかもしれない人」と位置づけます。（※先進国の2007年生まれへの人が人生100年時代に該当すると言われています）彼は、病気が発覚してから半年も経たずに亡くなりました。私は、70歳で止まった彼の人生を少しだけ知っています。人生は、何歳なら成功なのでしょう。100歳なら成功でしょうか。70歳で止まった後、白紙の30年は？今も生きていたかもしれない30年、なかったことになるのでしょうか。もし、お腹の中で止まってしまったら？生まれてこなかったら、カウントされないのでしょうか。そもそも、なぜ人生を1年という単位で区切っていくのでしょうか。これらは、「人生100年時代」という言葉を聞いたときに、私が疑問に思った一部分です。この言葉を提唱した書籍「LIFE SHIFT」では人生設計の論理的な内容が書かれていますが、私はその言葉のみを直感的、情緒的、感情的に受け取りました。有名で一人歩きしてしまった言葉のみを直感的に受け止めることは私だけに当てはまることではなく、大衆が「言葉」に対して持つイメージと重なっています。元も子もないですが、人生設計を完璧にしても、人生100年時代に生まれても、止まってしまうことがあるのです。この制作は決して書籍に対しての反抗ではありません。次に、今回の卒業制作に出てくる女性についてです。この制作は、彼女が生まれた時代によって見方が変わります。2007年より前に生まれてきた？2007年に生まれた？もっと後に？元気に育ち、友達ができ、失恋をし、結婚し…人生設計もしていたのではないのでしょうか。世間的には、とても順風満帆な人生を送っています。この女性は、誰でもありません。この女性は、ただ、70歳で人生が止まっただけなのです。決して特別でない人間です。もしかしたら今の私と同じ20歳で止まっていたかも、100歳で止まったかもしれない、ごく普通の人間です。この女性の人生を考えたとき、もう一度同じことを考えます。70歳で亡くなるのは、例えば15歳で亡くなるより運がいいのでしょうか。そうかもしれません。この女性は、運良く70歳まで生きることができました。では、80歳で亡くなった人は、この人より運がいいのでしょうか。自分に置き換えてみたら？答えは十人十色で、それが誰なのか、どんな人生を送っていたのかなどにより、明確な正解はないと考えます。また、亡くなることをここでは「人生が止まった」と表現していますが、死んだら人生が止まると考えるのかも、十人十色です。ですが、正解がなくても、これからの人生100年と言われる時代においての生と死を考えてみると、色々なことに気づくことができます。色々なことを思い、考え、生きる人の一生は、1年1枚とカウントするとたったこれだけしかありません。この卒業制作を通して、人生100年という言葉といつか止まる命について、今生きていることについて何か感じていただけたら嬉しいです。